

たかさ「史話」④

明治の選挙

明治22年に大日本帝国憲法が制定され、翌年に国会が開かれてから今年で110年になります。しかし、その時の選挙に参加できたのは全人口のわずか1%にしか過ぎませんでした。というのも、その時の選挙権は、25歳以上の男子で直接国税を15円以上納める裕福な人に限られたからです。それでもわが国初めての選挙とあって熱がこもったということです。最近初めての衆議院議員選挙についての史料が市内の旧家で見つかりました。それによると現在の選挙風景とはかなり異なり、演説会などは事前に警察に届けることになっていました。そして、その演説会では立候補者の演説や政党の宣伝よりは、代議政治や選挙権などがいかに大切なことかというところに力が注がれています。たとえば、「代議政治ノ善良ナルコトハ先進各国ノ情況ニ徴シ充分信認スルニ足ル」

とか「吾人（私たち）希望ヲ満足スルノ国会ヲ開クヤ否ヤハ議員其人ヲ得ルコトニアリ」とか書いています。また「選挙権を有スル者ハ一般ノ人民ニ代リテ選挙ノ事ヲ行フヘキ者ナレバ選挙ヲ行フノ義務アリ」「衆議院議員タル者ハ吾人ノ代議士ナレバ智識アリ、才能アリ、学識ヲ兼備シタル者ヲ選挙シ」「情実選挙ナドノ弊害ナカラントヲ希望ス」など自分たちの意見を国政に反映したいという熱意がふつふつと伝わってきます。今日の選挙と比べてどう思われま

（専門員 田寺典似）

